



LIBRARIES

UNIVERSITY OF WISCONSIN-MADISON

蝦夷行程記 = Ezo kōteiki. [vol. 1] 1856

Abe Shō'ō

[s.l.]: [s.n.], 1856

<https://digital.library.wisc.edu/>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

蝦夷行程記

西部

上

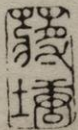


普天之心

下莫非

王士

石月



蝦夷行程記序

城東

務農者必先見來歲之曆以豫
定其耕種稼穡之候。則時至不
倉皇。遠行者必先見驛程地理
之書。以豫計其山川險易道路
遠近。則足進不迷。誤。故曰。凡事
豫則立。道前定則不窮矣。夫蝦
夷之為地。在荒陬。先是人跡少
至。世辨其方向者。蓋鮮。况於路

程乎。是以當今彼民化俗之時。
人之々彼土。猶之異邦。出門茫
茫。逐步求程者居多。嗚呼。行千
里之外者。如是而可乎。然則當
是時。通地學者。豈非宜使有著
書以豫示其所向。如彼農之於
耒。歲之曆哉。頃者阿部亭父以
家學之餘。著蝦夷行程記二卷。
松浦子重以實踐之熟。校之而

求序於余。披而讀之。自東西
兩部。及於諸島。其記道路山川
風物。簡而詳。邊界千里。歷歷在
掌上。覺神遊其境。於是余喜以
為二子先得。我之所嗜者也。余
雖不文。焉可辭其請。嗟夫。此書
之行也。人之有志於蝦夷。與之
近時。所行。闔境圖。及壺之石二
圖。以一閱之。別於彼之地理。大

有得其要領可視蝦夷猶視京畿又猶務農者之見末歲之曆甲復誰有逐步求程之憂哉則此書雖僅之抑亦可謂當今經世有用之一部而已安政丙辰孟春益堂鈴木善教書於駿臺僑居



蝦夷一曰毛人。其倍被
髮長鬚。左衽跣足。山海
經稱北倭者。豈是乎。其
見國史。始於景行帝之
時。嘉吉年間。源信廣略
定其地。而授守焉。是為
和前氏之祖。而其治專
禁夷人之華言華服。及
習文字。蓋恐渾沌一鑿
不可復制馭也。今也俄

羅斯与之接壤而彼日以開土廣境為事加之西洋誇夸屢繫船窺海甯涉之時墨守故法因循舊制而可也哉近日官新置尹於箱館以鎮壓邊疆欲漸被以教化更改其俗又募內地之民而移之欲開墾其鹵斥磽确之地故北行者

日多一日。阿部亨父頃
著蝦夷行程記。蓋其祖
將翁。享保中奉命三
入支地。所經歷山川風
物。巨細收錄。以藏于家。
亨父較之諸書。參互訂
正。而所成云。其書簡而
詳。荒陬絕徼。歷在于
指掌間。各挾此一冊子。
則其地險易。可以諳熟。

焉。於彼上程啓行者。不
為無裨益。若因之而上
程啓行者愈多。則教化
之行。邈夷亦速也哉。然
則謂之經世有用之書
可也。因為之序。
安政丙辰仲春加藤穆
清風甫



とよなるの句ははゆ縁のさくら
ちののえさくにととやちか
幾とをさかぬさるるさるる
かりやうの物さくさくさくさく
あはるのたのたのたのたの
あはる さるさるさるさる
とよなるの句ははゆ縁のさくら
ちののえさくにととやちか
幾とをさかぬさるるさるる
かりやうの物さくさくさくさく
あはるのたのたのたのたの
あはる さるさるさるさる
とよなるの句ははゆ縁のさくら
ちののえさくにととやちか
幾とをさかぬさるるさるる
かりやうの物さくさくさくさく
あはるのたのたのたのたの
あはる さるさるさるさる
とよなるの句ははゆ縁のさくら
ちののえさくにととやちか
幾とをさかぬさるるさるる
かりやうの物さくさくさくさく
あはるのたのたのたのたの
あはる さるさるさるさる
とよなるの句ははゆ縁のさくら
ちののえさくにととやちか
幾とをさかぬさるるさるる
かりやうの物さくさくさくさく
あはるのたのたのたのたの
あはる さるさるさるさる
とよなるの句ははゆ縁のさくら
ちののえさくにととやちか
幾とをさかぬさるるさるる
かりやうの物さくさくさくさく
あはるのたのたのたのたの
あはる さるさるさるさる

うたふはりの人の山邊とて人のたふ
るも家玉地のゆつは國を成るを
婦の之をいひて思ふも是れはた
以てを流るることをもて在任控の
ち思はぬといふ言候のむし とも
おれを成るる婦を三とてすく 流
ふは地をともて其の地をいふを
もていふもをて捕りて思はぬも
を流るるもを流るるをいふは
思ふもをいふは思ふもをいふ
ぬふはもをいふは思ふもをいふ
をいふは思ふもをいふは思ふも

花を折るゝと矢の宿のし能く之を
もむはしとさゆ人のはまわのしと
ちよと折るゝとさゆ人のはまわのしと
もむはしとさゆ人のはまわのしと
の書の世より折るゝとさゆ人のはまわのしと
さゆ人のはまわのしとさゆ人のはまわのしと
もむはしとさゆ人のはまわのしと
さゆ人のはまわのしとさゆ人のはまわのしと
さゆ人のはまわのしとさゆ人のはまわのしと
さゆ人のはまわのしとさゆ人のはまわのしと
さゆ人のはまわのしとさゆ人のはまわのしと
さゆ人のはまわのしとさゆ人のはまわのしと
さゆ人のはまわのしとさゆ人のはまわのしと

この行程記も、家祖照任の三使採葉行
 記規奉とくく、小海随葉、小葉考、後種作
 新紀遭、日本紀事、使紀、均、夷、讀、信、體
 某、夷、防、と、松、信、未、夷、風、説、考、休、的、光、記、巴、葉
 分、東、國、考、銅、板、録、録、懸、夷、志、弘、の、地、夷、路
 程、便、賢、於、木、益、堂、の、地、夷、舊、聞、之、存、在、乃
 地球全圖、藤田惇齋の地夷圖、境全圖、竺之
 ようく、纂録するものあり、所謂文豹の一斑
 あり、予も亦、是日普くこの地、城、陸、海、一、々
 五、度、を、測、量、し、て、舛、誤、を、糾、正、せん、と、決
 意、す、と、爾、云、

あ、政、三、年、丙、辰、夏、月、樺、齋、西、郊、書、任、誌



蝦夷行程記上巻目録

一 蝦夷地遼海の圖大概

一 蝦夷人の真像

一 奥州海口の諸方への里程

一 箱館の松並木の水路附 矢越等の変

一 木子内越の変

一 松並の江差港への水路附 大宮ふきの変

一 江差の熊石村との変附 ヲクニリモ

一 熊石の天龍の変

一 黒松内越の変

一 石指のユウブツ越の変

一 テニヲ川船の変

一 アバシリ越の変

一 シヤリメ東約(越る)附テウシ。ヤンケシリニ去

同リイシリ。レフニシリ

○ 莫亞海口の諸島の里數

南約佐井藩の

箱館十一里

同不

松本廿八里

三脱

尻天岬(廿六里)

三脱

厚狭(廿七、八里)

三脱

得産(十里)

昭の沢

松本(廿里)

川内

松本(廿六里)

里約

同不(廿二里)

野辺塔

同不(廿八里)

大物

同不(十八里)

津野妻表

同不(廿八里)

同不

松本(廿八里)

三脱

松本(十八里)

同不

松本(九里)

同不

白神(廿七里)

同不

得産(廿八里)

同不

音園(八里)

同不

江差(廿八里)

蝦夷行程記卷之一

江戸

阿部喜任纂述

伊勢

松浦 弘校訂

西廻り之部

箱館 ハコガタ

人家千八百軒 タチヤ 徳田邊船幅棧の

有川 アライ

二里

地あり チ 毎瓦の堂あり タテ 南より ミナミ 北 キタ へ

あり アリ 南 ミナミ 津 ツ 陸 リキ の ノ 山 ヤマ 海 ウミ と ト へ ヘ び ヒ び ビ 一 イツ 驛 イキ あり アリ 是 ココ の ノ 如 ノ く ク 一 イツ の ノ 如 ノ く ク 西 ニシ の ノ 碑 イサヒ を ヲ 毎 タテ 瓦 タテ 東 トウ の ノ 碑 イサヒ を ヲ

立 タテ 待 マツ サ サ キ キ と ト の ノ 沖 ウミ 乃 ノ 口 ノ の ノ 山 ヤマ 汲 ヒキ 水 ミヅ と ト 中 ナカ 央 ウラ と ト 一 イツ 々 ツツ

西 ニシ へ ヘ 毎 タテ 瓦 タテ 町 チヨウ 中 ナカ 町 チヨウ 横 ヨコ 町 チヨウ の ノ 上 ノ 町 チヨウ 蓋 カサ 屋 ヤ 町 チヨウ 東 トウ の ノ

方 カタ へ ヘ 大 オホ 町 チヨウ 内 ウチ 間 マ 町 チヨウ 地 チ 務 ム 町 チヨウ 非 ヒ 形 カタ あり アリ 是 ココ 道 ミチ あり アリ 是 ココ 地 チ

田 イデ 村 ムラ 弟 ニ 年 ネン 橋 ハシ と ト 渡 ワタリ せ セ 七 シチ 重 シロ 溪 キ 谷 ヤ の ノ 名 ナ 抱 ア あり アリ

七海道 シチカウダウ 中 ナカ 上 ウヘ 一 イツ 文 モン 花 カ 閣 カク

山ニツ

山アニ+

△サ
ラハ

山ニ

海はるる光るあまのこさ
みくろ名節録山
雪のよの月 音遠

山ニ

箱館之の之圖

山ルガツ

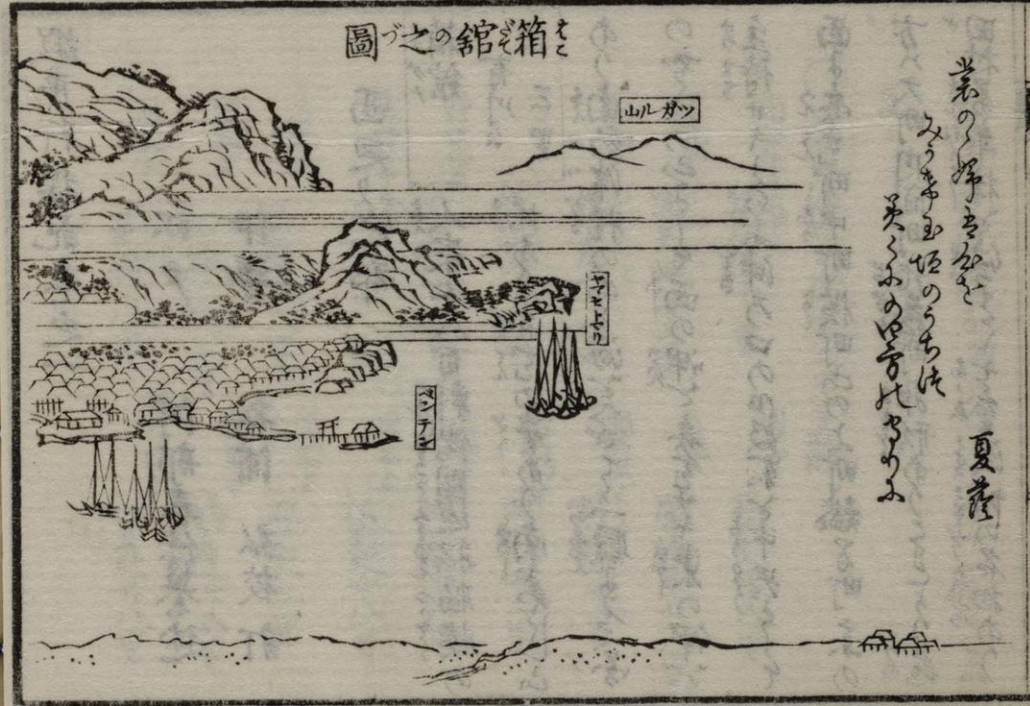
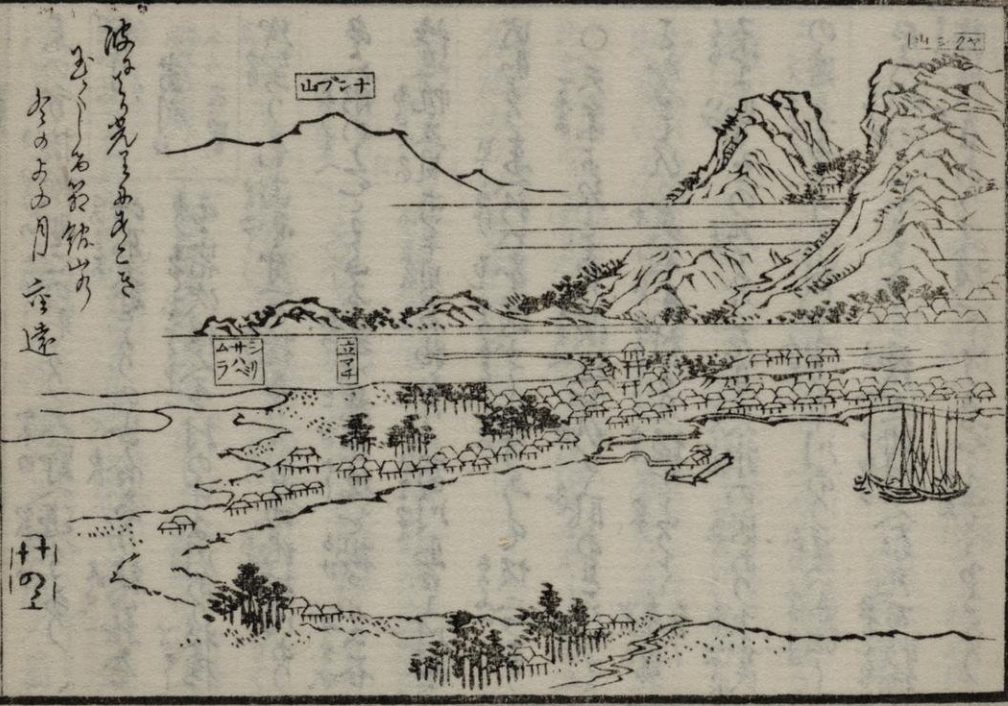
山ニ

山ニ

表のく輝きかを
みうきまのほのらち
夏産
美くふのやうにやうふ

地海緯緯誌

海防



東の方格板世きせうのこの和より大野おのの（連分あり）

有川ありがは 此和天野このしあまよりの出合いあひあり 猿籠さるご籠ご登のぼり

當別あつりべ 有川ありがは 富次あつじ渡人わたりにる村の中むらなかは川あり板橋いそり

三里さんり 加加かかあり尾崎おしき五身ごみ一の橋いちのばしあり。戸切とぎり地村ぢむら川あり

冬ふゆ氷こおりの上うへととより夏なつへ藤原ふじの権ごんを樹うけ。三谷みや

此こゝ辺へ帆立貝ほたてホツキ貝ほつきい名物なぶつあり。富川とみがわ出合いあひは川あり

比ひ和わより本道ほんだうあり。由よしりて板いた二ふたあり

○天来てんきありととみ入いり溪邊せきべをめぐ風かぜありはく

王わうかみより。矢や不ふ来き村むらより板いたをよるとあり

原はらよ物ものその乃なりよりたは天来てんきの室むろあり香か末すえ氏うぢ

の遠とほくあるより一板ひといたをよりて川あり夏なつは海うみ渡わたり

冬ふゆ氷こおりの上うへととより。後あと地村ぢむら人ひと衆しゆ凡およ百ひゃく石いし籠ご

猿籠さるご籠ご登のぼりあり又板いたをよるとよりあり

トウベツ
當別

キコナイ

四里

入里いりは金かね取とり役やく人ひと住すみ此こゝ和わ名な六む

百石ひゃくの船ふね乃なり揚あげ小こ宮みや一いち旅たび籠かご登のぼる

カジカかじかといふ名物なぶつの娼妓おやぢあり小存こぞんあり平へいある

渡辺わたべをかきつく。三ッ石村さんいしむら。谷石やにいし小川こがわあり。

和泉いづみ津つ大泉おほいづみとといふ昆沙門こんざもん堂どうあり高たか地ち廿一にじゅういち

の古利こせりあり。札さつ荷かり小石せせき勃はつ舞ま俗ぞくありやといふ

名物なぶつあり此この平へい坦たんありて宜よろし

木子内きこない 此こゝ和わ人にん取とり百ひゃく石いし余あま旅たび籠かご登のぼる政せい理り

とこの娼妓おやぢを村内むらうちよ遊あそぶる右みぎ本ほん左ひだり

此こゝ本ほん左ひだり右みぎの方かた津つあり四十八しじゅうはち船ふね川がわ三里さんりあり

愛あい妻つま津つ小こ宮みや一いち津つ下した番ばん本ほんあり役やく人にん

物もの多おほ量りやうありて以もて多おほ量りやうのの止と宿しゆくとて是こゝより又また

川がわとありわづらぬ川がわ小津湯こつゆの平へい菅すげ府ふ大おほ苗な

茨城ついでて山村きんむらへ出るとるはる九十里とてり

川と流りなが漢辺たまえを坊々や板橋いたはし云々そまより知内ちうち

川かみ流りなが毎夜まいやき之この十じゆ文ぶん

知内ちうち

人ひと取と五十ごじゆ歩ふ許ゆるはは和わ難なん漁り小こ秋あきを

福清ふくせい

板いた名な留りゆうをを福ふく清せい屋や中ちゆうりりはは不ふ七しち不ふ

思し後ごととああるる工こうとと河か端たん少せうくくああのの子こ自じ中ちゆう漢かん辺べん

みく魚うとのの子こ自じ生せい是し東とうのの教きやうととあありりととののみみととふ

鼻はなままががううととのの女によ也や

此この心こころをを揺ゆ送そううう船ふねをを雇やとひひくく後あき清せいへへ坊ぼうああり

振ふ本ほん小こ田でん為ゐ人ひと取と女によとと送そうくく矢や城じやう神かみととああり

谷や谷や交かう向かうひひくく福ふく清せい人ひと出いづづけけるる海かい岸がん縁えん縁えんははま

志しととくく茂もう林りん坊ぼう者しやととくくととくく風ふう京けいうう九く七しちのの年ねん

村むらととわわくく九く丈ぢやう所しよううととくく番ばん外がいのの社しゃ中ちゆうりり半はん千せんや

リ川も渡り一人旅二三軒ありけ辺を尋ねる小舎

あり。湯の尻川細支野はよは温泉あり

二渡り川あり歩ゆまろくまろく大よありし

み屋や 止宿とゆふと。知内休九折坂を越りよ

人旅あり二里許ありて福田川あり歩ゆ渡り

福嶋 人旅二百軒許旅籠屋あり。白布

二里 人旅二百軒許。万七沢人旅あり

許。宮のうた能き船泊あり人旅三十軒許

吉岡 人旅二百軒許船宿美々旅籠屋

マツマへト 船改設本木ありは和舟も城の古馬

生船泊冬月八船より入るあり砂浜共町許よ

志く礼賢村人旅二十軒許是あり坂よかる新

乃古乃二館あり。茶屋味は和より雨の方

松本前之之圖



白神岬
 大ササ
 子モリ
 此の海をその
 子をもつて
 其の代りのゆき
 舟をかきつる
 後



七面山
 沖
 天松
 のをかきつる
 ひん
 舟
 舟

又松木の城下と見え南の方より津神南約三を

風急言をよこす程一りりくち本乃小川と

載くた渡をりとりとせむ多件よりて白羽の

村よりこの下は及之松前度後海の岸に根

煙とあがりあり。荒倉村人並日水許。大

沢村川あり。根取村番取あり。及於村川あり

破とよき田司り沢。泊り川は不城下の入口あり

校が傍町上まのち馬形へあり。大松前町

及び横町川系町中川系町ら町并町を不

小町をりし道を畧す。川あり

松前

エラマチ

六里

此不仲の口は及不あり上の松前度

の城乃ちの是と安紀あり元人取

三子形とてりぬあ七面土地養か岳ソリを

ま 本より せんせしる きふ いたまふ ぶそ つかる
茶の徳圃の地 船をよまう掛一をを隔く津地

の岩城をを即む 風系筆紙ははうがう湯を

波岸原内町より西館とてを和なり 播磨石断

よりよりあさこ町生府立石野に番和なり 總徳持

毎五の量あり 根府田の家母水余。札茶田六十水

余。赤津田水。西垂石十六水。清砂村水

辺の村を志で海事のあり大カモヲといふ川

系あり小極四十二畝の地あり

江良町村 人家百水坪をこやありありの

一里 一里 船浦あり氏不よう小湾をい村

より坂のちるジババ小沢。ソマル小沢未を誠元

系に村人家母水又坂とのがう 鍵船渡を

河原沢トツ沢トチノ木沢ホの大籠不あり氏辺

舟の電子くろくく失く入てあり船とやういそ
子砂子村人家世新金をひのり人こもあそ中食

てへ。漢阿ダコミワエリ大船ありモツ互石

便大船不甚不修。船石と船とぶつ決り

石傍川冬冬水の上を渡るまきり夏ハ船あり

石崎村 人家二百餘軒まことろも船棹村

人家廿餘小き丸舟と船を流し川は

村は流し川あり。扇石舟舟本の子村母舟

右の方面たより。た漢辺かーゆけへ坂まこあ

岬と子マの岬とよふ文書と見ゆは辺よりそあり

上の園 人家三百餘軒旅籠屋小主人

村の中ぬい六百も船船の浦あり

不松若木の香殿あり村中子船八幡あり

渡しの川あり 北村 キキウラキニ 本子内蔵より いしや 尾門寺あり

人取世水許砂渡を以て。ト、川人取三水。以

猪子村人取百水許小高人并又船持屋敷を寺

小高氏あり江差分あり。彼町。茂尻町。小高

沢町。沢茂尻町。細町。務町因石上の方又坂田

町の上町おけや町源代町切石坂町美師町新

比町持女あり新よ崎急とくの修あり

江差

シトへは

六里

人取三水水余小園陸奥の船へ

は帆あり高坂を新島のかあり。姥

津町姥津の社尚石の跡あり。中款町。九艘

川町上よを新内町寺あり。後本石町は石あり

沢よりささ木橋参りありは石も岩の社あり

史より漢乃。泊村人取又十水許。尾山村人取

北海通中記上
一
文
記
上

人永世那田沢村人永六十那竹上三村英びき
あり是より友依木戸漢人永世那汗南を
衣の方坂とせざる事ありあり七土場村人永
世那川を船とて一舟にアニル俄世迎より奉
送せしむるは船村へ身をせあり一は迎世漢より
。西歸沢漢水あり是よりありあり

乙部村

マイレ
六里

人永三百那汗僅の市町ありて是
も何より村の下森支船の船り溜

ありは漢少保舟一の喜奥の漢場あり是より船
渡一の川あり川をせまけき
な漢をより又テの下と

りる巖岸とせざる又かききとせざるも坂あり

系より出く小養内川とてなる
は川ぬりありて
。小養

因村人永六十那汗。大養内川。大養内村人永

えきみちとせん
江差凌鯨
昌の図

丹山

移本

大天の
わらわら
みちのくのみ
もも
大河の

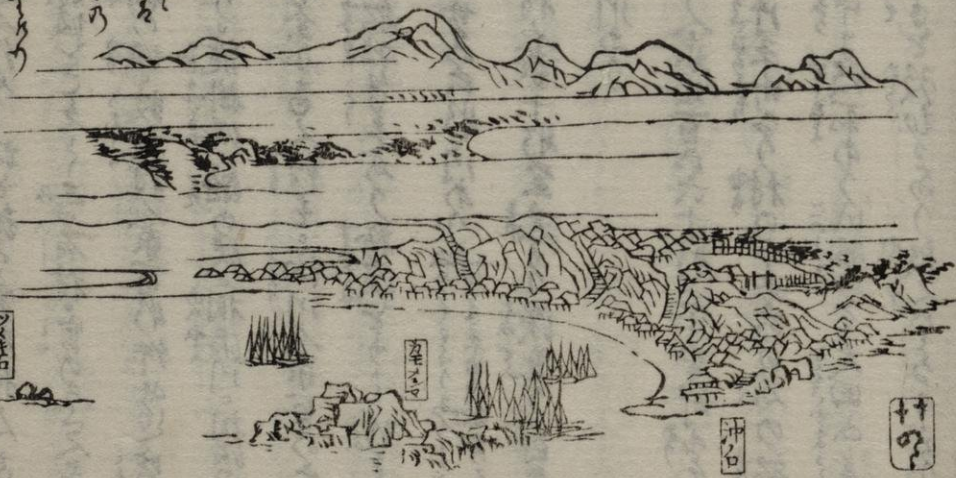
石

石

石

石

北海道
八
文
月



百羽こやう許こやう小島人こやう住あり坂さかと越こえく実府村人とつ小家

女羽こやう許こやうまま坂さかと越こえく三ツ石村みいし。宮みやのううく人ひと家

早十羽こやう許こやう。鞘さやの坂さか。蚊こも籠村人こも家か百羽許こやう竹たけ道みち皆みな

漢かん史しののままりり。鎌掛かきか次つぎ。越こえのの次つぎ。相浪あいなま川がわ。相浪あいなま田た

村人むら家か百羽こやう余あ小島人こやう住すまま。泊川とまりがわ人ひと家か百羽こやうああ云い

十羽こやう小島人こやう船ふね持もち等らままあり砂すな溪たにとささ一ひと坊ぼくと

見日みひ村人むら家か女むすめああ云い水みづ川がわありあり。川がわよりより米田こめ田た間ま川がわありあり

アイトマリ村人むら家か十羽こやう余あままよりより深ふかををりり。白しろ茶あは

山崎やまざきありありと川がわありあり

熊石くまいし

クトウくとう石いし
五里ごり

人ひと家か三百さんひゃくああ六十むそ羽こやう二十にじゅうああ町まちをを

斤しん平へい町まちよりより村むらの下したああ云い百ひゃく石いしのの船ふね

是こゝををべべーー村むら申まをす子こ坂さか不ふありあり氏うぢ姓せいありありと大田おほの山やまと茶あは

傳つたのの人ひとのの切きりをを改あらたむむありあり役やく人ひとををままりりありあり

皇子利周王十に里えちまやと上あつと登せありおつと掘納せ橋

の渡場せしやありえまや熊石くまいしままくくトウとよりよりもも便びん船せん

ありあり九く五ご里り大田おほの石いしのの義王ぎおう控まも所ところをを多たるる瑛えい

降定こうぢやう當ありりくく行まりり鳴な物ものをを禁いむ

富士路

七しち里り十じゆ里り

陸路りくろあり

運上えんじやう倉くらをを形かた八はち水みづ作つく産う物もの

船ふねよりよりとと船ふね船ふね船ふねタタララ高たか城しろ海うみ州すホ

新あらたくく五ご六ろく百ひゃく石しやくのの船ふねををべべーーかかしし押おせせととくく

フフトト口くち川がわ歩ありり流ながるるくく元もとへへツツ船ふね渡わたりり比ひ川がわととま

捨すて枝えみみ砂すな令しやう多たるる一ひとヤヤママココミミナナイイへへ六む船ふねししたた

ありあり中なかつ熊くま多たるる一ひと麻あしももあり

頼多内

海上

五十里

運上えんじやう倉くらをを形かた八はち水みづ作つく産う物もの

船ふねよりよりとと船ふね船ふね船ふねタタララ海うみ州す渡わたりり高たか城しろ海うみ州すホ

あり。二本ふた杉すぎ岩いそあり。シしツつキき昔むかしハハ道みちとと倉くらを

今ハ番屋のこちあり。モツタガキ。ヲカムイガキ。

ヲファイガキ 是を面地のニ丈俣といふこの俣を

よりく完登とありけり白糸湖あり其より

この地中一の風景ありイワナイへ海上廿二里又

スツキへ六里といふ

嶋兒纏

運上倉を新入敷十町余を相懸

スツクト 六里あり

難免漢倉あり 船瀬より一かゝり

は帆より出稼ハ二八北よりあり。より川 浅深あり

サリモエ番屋あり。ライタイニ番屋あり 其より

俣を越くホロトマリ。ペンタイ俣とライゲン俣

と對して灣とあせり

周津

直上倉あり 人家多し 津漢中を

陸二里 海上廿七丁

輪船懸はれ ヲタスツと對峙して

一文湾とありて能き淺あり渙水あり商人
も多く住あり是より北極海に地あり

此よりスツベツとあり川を以て川筋と云ふ

のち北極海に肉作あり桑を栽あり止

宿とありて二道より北極海にありて北極川と云ふ

マニ川のよとありて北極海にありて北極川と云ふ

北極海にありて北極海にありて北極川と云ふ

かく北極海にありて北極海にありて北極川と云ふ

砂洲津

イシヤト

海陸

此より北極海にありて北極海にありて北極川と云ふ

とありて北極海にありて北極海にありて北極川と云ふ

洞あり北極海にありて北極海にありて北極川と云ふ

蛇多しアルト洞あり

磯屋

イワナイ

海陸 五里廿五丁

運上屋あり人求む六軒漢少屋凡

百軒社七法ら英二諸多人妻の内

も多し船溜より一産物鮑鮭昆布いりこ

鮑船干鮑烏絨の敷山小熊多し。ニリ三川

後方羊蹄より出るとライテニ押流ありき温

泉あり毎々の力カケ石あり。ニニナイ小番屋

あり。アニエナウの押と鳥ろくラムナイふり

インヤより岩内へ少く一筋あり甚難不あり

岩内 運上屋を杉久求む六軒漢少屋

二百五十軒船溜あり鮭多し

昆布鮑と身一とて難莫多し又海獣多し

人英子七法ら多し鮑漢中六を飯へとく

群集を又は山中に硫黄あり熊多く鮭多し

海濱えびんより船ふねの方かた少すくく海面うみづらへ如ごとく後方シリ

羊蹄山やまより見みゆるあり小方ちひさかたよりつくと見みゆる

旧時まじとも不ふ登とのきゆるとふふ。ニヤニナ番屋

ありサカツキあも番屋あり

扶留得フシロトク

ニヤコタニ

海上うみ
九里くわ五丁ごてい

運上うんじやう登とき新あらたく永なが共ども新あらた許もと濱はま小屋こや

百ひゃく新あらた許もと船ふね泊とまりあり高たか人ひと住すまむ産物えんぶつ

靴くつ抱かかいまと登とりこ不ふありニヤコタニへ九里くわ五丁ごてい

とふいども実まことハ十二じふに里りも五ご丁てい

あり十里じゆと八はちの中ちゆう一いちと不ふ油あぶらと後あとろろ丸まるをを或あるハ丸まるををままととるる也なり 社やしろ和わのの七しち人にんハカイと

法はふふふと自おの在ざいありく妙めうとと好このるるとののふふままとと氏し紀き

よりより美み女によとと林はやしむむ。ヒイカキナラニ番屋ばんやあり

マツトマリ番屋あり。ヲカカイイ押おし人ひと不ふあり

殊ことありありととくくかかーー帆ふをを切きるる一いち礼らい海かい志しとと登とるる

ワカハチガキ
 神岩岬
 とぞんば
 主人敬拜
 の圖

此山は...
 土佐道中言...
 文苑...
 陸...

此の山の

都てよ

みちびくち

よき人の

とて

主人

性徳



孤山推
 正
 昌

餘市ヨイチ

ヲニヨロト

此處を下ヨイチとの小里上をき

海陸

二里九丁

杉人家八十軒あり 松浦あり

産物 雑穀 之の外 雜貨 多し 熊 多く しく

麻 少し 雜木 多し 鷲 又 海 獣 多し 〇ヨイ

千川 水深 八ヨイチ 岳 といふ 山 あり あり

船泊 溪 辺 小石 多し 系 丸 多し 里 多し かり しく トラ

エヌ 岬 差 在 あり 木口 へ 岬 嶺 あり

臨萬歳

夕方ニマレ

里上 倉 多し 杉 人家 多し 杉 船 浦 あり

海上 童女九丁

狭 小 里 といふ 小 里 極 あり 産 物 あり

鮭 煮 海 前 溪 小 倉 多し 杉 軒 多し 杉 船 浦 あり

櫓 多し 其 風 系 多し 杉 船 浦 あり 杉 船 浦 あり

胃 結 胃 の 形 あり 〇コタニ 溪 小 倉 あり 〇シホ

ヤホニムイ 溪 小 倉 あり 〇アイカッフサキ 此 岬 あり

ニクスニ^{カク}御と^{タケ}對峙してヲタルナイ石カリを
夏^{あき}ハ^{つゆ}入^こ込あり。メナニトマリ^{せんや}夏^{あき}あり。ニクス
ニ^{えちう}小人^{こま}あり^{おち}山中^{おち}小^こ熊^{くま}麻^{あし}あり^あ樹^き木^こ多^{おほ}一^{おほ}海^{うみ}
市^{あき}世^きよ^ろい^ろも^ろる^ろ蠶^あ糸^き操^ろと^ろる^ろめ^ろを^ろる^ろト
あり^ろと^ろと^ろ紙^しを^ろり^ろぬ^ろの^ろ愛^あ化^けと^ろの^ろふ^ろと^ろぞ

高島

高島
海^{うみ}上^{かみ}
一里^{いちり}三^{さん}丁^{てい}

夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}

夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}

夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}

夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}

砂路澤

イニカリ

會^あ合^あ女^に今^{いま}

夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}
夏^{あき}と^ろ夏^{あき}を^ろる^ろ人^{ひと}家^か女^に形^{かたち}許^{ゆる}漢^{かん}小^{せう}

文苑 卷之三十一
三十一
文苑 卷之三十一

産物ハ麴と才一の漢ありまひ麴はまに思和をらんぱ

外難負海多ふらざつぎよ うんさうおれ畜人佐めりあはうとそ船をりふねがた下のま

酒ありいハぬゆありとた財ありあわ考らまてふまて

此石の本名ハクツタルウこのころニありおと然且まろとも人

ヲタルナイとのふヲタルナイハ是こまよりこまなり

ありひがくく川の名あり。ノブカ人あり。アツ

トマリ漢こまあり。マウニこま産あり。アサリ

産あり。マサリ産あり。チヤラセナイこま産あり

マウニリ産あり。支こまより砂漢あり。石こまあり

ホレナイ川このころヲタルナイこま南こまあり

フンベマイ砂路あり。キマキ又川こまのこまとサ丁こま

石こま藪こま買上産こま水川こま端こまより人承こま文こま記こま

海陸 内こまふ九百七こま千こま水こま許人こま数九七こま百二こま三こま

十人もあるより 漢中を川筋五十里をわたり

九八十里許ありとのふ産物鱧の多あり鱧目

ども川あそく 鮫いとう 藤奥比目 鱈真とど

るあり 船八里より屋の岸より 善くあり川を九

半里許 吾版國中 舟の大河あり 舟屋六アカシ

岳より 出る九二百里とより 舟の父川とのふ

舟川より 舟船ユウフツへ 越るふ川筋十市 舟

ツシカリ 伊予のト 十二里 妻屋より 止宿一是より 舟屋は

舟とく 舟の枝川入り 舟ハリといふ川 舟

こえとく 舟マツフあそ 舟休ホロヒリ 舟

を越す 伊サリフト 川筋十市に 六里 舟屋は 舟より 止宿を

カマカ差屋あり 舟休夫より フサツトウと

いなる 舟よ 舟を 舟より 舟タルナイ 舟三ツ

ヲニヨロクチ

ハマシケレ

海上
七里十八丁

舟名を安豆田ヲニヨロクチハ今の

運上倉の場をさう昔はこより

を里先よりその名をともひ傳ふるありす

と倉を新漢少倉百新洋船運上倉の初

かきとも曉徳多一産物雜雜奥

是よりへツトマリ産倉あり。アツタ産倉小川

ありニリナイとゆる産あり此辺より施登

ヲクリケ産倉あり。アイカツフ仰ら産あり

エヤシハカレシ産倉。ヒサシへツ産倉。ヲタへツ

産倉皆小石の溪路あり

濱間般

マシケレ

海上
九里廿丁

運上倉を新入家より新産

を場へ産後の方運上倉の前

そり形する産物雜雜雜海獣より

七海道中記上
六
花
月

其内そのうち 羣ぐん 純じゆん 八千五百石目やくちゅうごひゃくしやくめ と出で せとらより一里

をを かりかり 奥おく 子こ カ子かこ 山さん とと 比ひ 合あ 抗かう ありあり 山さん 小せう 然ぜん

まくまく 麻あし 小せう 海かい 岸がん へへ 純じゆん 壁へき ありあり 播は 送そう 船せん

ああ とと 比ひ くく。ホほニにクくニにハはツつ 漢かん 中ちゆう 有あ ありあり。トとコこタたニに此

辺へニに終せつ 壁へき ありあり 比ひ せせ 有あ かりかり。ヲをフふイい 押おし あり

イいナなラら 押おし とと 奥おく ありあり。ヒひカかタたトとマまリり 比ひ 和わ 有あ 書しよ 有あ

るる 若わ 風かぜ かか せせ うう ちち 悪あく きき とと 死し へへ ちち 止と 宿しゆく せせ 有あ

為な 小せう 建けん 小せう けけ 有あ。アあヨよクくニにナなイい 勝かち ありあり。大だい へへツ

カかリり 小せう 目め 砂さ 漢かん 路ろ 有あ 有あ ありあり。ホほニにナなイ

滿まん 敏みん 表へう

ルるハはモもツつヘへト

海陸

五里ニ

本ほん 名な ホほロろトとマまリり とと 小せう 目め 有あ 有あ ありあり

まま 新しん 人にん 家か 女にょ 八はち 船せん 有あ 有あ ありあり

死し 不ふ 見み 見み どもども 比ひ 政せい のの 有あ 有あ ありあり 香かう 草そう 草そう

羣ぐん 純じゆん 羣ぐん 海かい 嵐らん そのその 外がい 雜ざつ 魚ぎよ まま 一いつ マまニにケけ 川せん

ミナト
又海ハマニテ岳より出づ 此より陸路も有

又その相おの松送船ありきるあり。ハニヘツ小

川あり。ニヤクマ岩あり。ノフニヤ川あり

。ビラ 漢少屋小休あり。セムニ土人住あり

此よりか、此畧を以て川を船と入る

山中廣く 熊麻 雜樹多し 石川川のあり

源之勢あり

ル、モツベ 官上をきり人数六十七名船の

海陸 五里サ丁 かの洞あり川はふるる源あり

ル、モス岳と云ふより物産地へ 麓あり

海前 巽布 雜英 海獸あり 土地肥沃あり

巨枝多し 熊あり 鹿あり 漢少屋四十名

一よりあり。ウニヤ 漢少屋小休あり。ヲ子ト

マリ裏原むらやより登体ひなまき川と繋つながる。道より山原やまはらあり。

負荷鹿オニシカ

大森おほのもりにあり。止宿とどまりまぐール、モツベ

トマイイト
異字ニ

沢さわあり。郡舎つがやより道より定さだ附つひ城やしろ

まぐー。ラニ子ヲニシカ川あり。リキヒラ裏

登体ひなまき川あり。登体ひなまきあり。千之ヤ砦とりで城やしろ

治ちとのみ。コタンへツ川あり。道より田いり十と五ご里り船渡ふねわた

船渡ふねわた多おほ一ひ川をこえ。ソウノトマリ五ご里り

渡満参トマイ

マヒヒツレ

八里二丁

道より登あり。人ひと多おほく。登あり。小こ川があり。登あり。道より田いり十と五ご里り船渡ふねわた

海うみ航かう船せんを仲なをりあり。道より登あり。道より馬うま多おほく。船せん

小こ川があり。馬うま多おほく。送おくる

テウト島

トマイイメやま 周しゅう二に里り東あづま漢かん小こ川があり。登あり

ひとてり

一モアとあり。ヲタコニヘツ小川あり。ウエニヘツ

弘済ひろやすの川あり。量ひのやま体たみ不ふ。キビトタニナイよちん小

さらぬま泥あり。小体こたみ不ふあり。キヒリ山さん中ちゆう熊くま麻ま繁らん

あり。又また海うみ野のあり

直信男テシレヲ

ワツカニダナイ

六重モ下

此こ不ふりん六む里り上じやう屋やあり。この川あり

鮭さけ漢かんへ今いま来きた廿に八はち人にん家け凡ぼん廿に十じゆ水すい降かう

皆みな此こ川が筋すぢお短みぢきな弘ひろ済すふり川が筋すぢ五ご丈ぢやう序じゆ物ぶつから

土ど人にんの食く料りやうのとあり

テてホほベツべつをを百ひゃく八はち十じゆ五ご余あま余あま原はらハエはウうベツべつ小こ林りん

あり。ままと。コこエえカかニにヘツへつ泥ぬまあり。ヲをニにサさツつへへ人にん

家けあり。ニにコこフふ人にん家けあり。ナなヨよロろ人にん家け小こ川が

。ニにヘツへつフふレれタたへへ人にん家け小こ川があり。ニにヘツへつノのカかニに人にん

家けををままよりよりナなエえタたととゆるゆる不ふ九く九く十八じゅうはち里り

其形前よ圖まるとくありて海中小島

出く加後清正船解元良哈より世山を以て

我國の富士山と稱するは後述ありて

あり林の平ありて樹木多し其地

極里四十五度十一分とあり更に

漢の女水汗人衆の水産物鮑鱈昆布

煮海胤ホありエトヒルカとあり

沖を以て
リイニリケ一甲半ハツカイ分九里也
この名ありリイニリの山あり

云里樹木多し平坦ありてあり人衆

十町汗漢の八水船泊ありて産物

方隅界
東に長大なる入江ありて大島あり

止宿ありてソウヤ支配あり船ハ

雲を以て人衆漢の産物ソウヤ

園あひとよみルイラニ休こやまありて是より坂さかニ

坂さかとわりくたふゆを海岸うらぐん岩いそみちをあり。千

カフカルウニ巖たんや屋やあり。ルエシヤントマリ巖

屋や。ノツミヤフ押おしと島まりて。へウレサレトマ

リ巖たんや屋や。ホロニタツと島まりて。クサシルと

島まりありて。島まりあり

ルイラニ岬さかは空あかりて。ゆき死ぬま泥まあり。世よ泥まは

世よありとつて。島まをきりて。世よ泥まは。又またありて

谷やまあり。かゝりて。クミヤル世よ泥まあり。又またあり

島まあり。クミヤフ船ふね渡わたの川がはをきりて。世よ泥まは

漢かん少せう登とう登とう休こやまあり。上かみ子こ泥まあり。トウケニ

。イキム子こルクニ船ふね渡わたの川がはあり。世よ泥まは。十六じゅうろく名な小

休こやまあり。世よ泥まは。十六じゅうろく名な小

曾宇耶

千五トマイ

五重千子

海上をきりぬる舟の如く、
舟の上をきりぬる舟の如く、
舟の上をきりぬる舟の如く、

と對して一湾をきりぬる舟の如く、
と對して一湾をきりぬる舟の如く、
と對して一湾をきりぬる舟の如く、

又その舟は八十余あり、舟の如く、
又その舟は八十余あり、舟の如く、
又その舟は八十余あり、舟の如く、

難莫異布油歎るお莫異布油歎る、
難莫異布油歎るお莫異布油歎る、
難莫異布油歎るお莫異布油歎る、

又カラフト島へ舟をきりぬる舟の如く、
又カラフト島へ舟をきりぬる舟の如く、
又カラフト島へ舟をきりぬる舟の如く、

あり海上十八里。是よりハシヤリまゝ、
あり海上十八里。是よりハシヤリまゝ、
あり海上十八里。是よりハシヤリまゝ、

跡ありて、舟をきりぬる舟の如く、
跡ありて、舟をきりぬる舟の如く、
跡ありて、舟をきりぬる舟の如く、

サニナイ岬人お小休あり。アマシホ人お小、
サニナイ岬人お小休あり。アマシホ人お小、
サニナイ岬人お小休あり。アマシホ人お小、

休ありて、舟をきりぬる舟の如く、
休ありて、舟をきりぬる舟の如く、
休ありて、舟をきりぬる舟の如く、

星四十餘ありとあり、
星四十餘ありとあり、
星四十餘ありとあり、

千五トマイ
大島を止宿する人あり、
大島を止宿する人あり、
大島を止宿する人あり、

サルフワ
舟をきりぬる舟の如く、
舟をきりぬる舟の如く、
舟をきりぬる舟の如く、

千五トマイ
舟をきりぬる舟の如く、
舟をきりぬる舟の如く、
舟をきりぬる舟の如く、

て一丈灣とあり。ヨニビツ川あり。まゝあり。

人衆昼休あり。ホント、ニ。ホロト、ニと云

佐留富津

ニホナイ

五里五丁

大表を止宿。又、人衆あり。船後

の川あり。廿七八日。奥よ派あり。周

元四里とあり。ここより砂路。ヤムワツカル昼

休あり。トニツ人衆あり。又船後川の川あり。ま

廿日。コイトイ小川あり。ワツカクニナイは

辺をくわうけの海岸あり

塩内

エサシ

五里五丁

大表を止宿。又、人衆あり。小川

船後。又、支あり。山あり

此不同。又、入。撥送。船あり。好い。ア

マンホ。シユコトエキル等の岩岸。大表あり

尖あり。シラウ。シト。マナイ。小川あり

エサシ

小体不人おあり。ヘラエウシ人おあり。ヲレ

夕口漢少屋昼体不あり。ヲホトマリ是より

かー山乃あく。トエマキ能るヲチキリ。

ノフマツシヨおどろふ大岩石岸あり。ウエント

マリ人おあり。ホントマリ小川あり

エサシ
愛佐子

おむんや
大妻屋あり 止宿まどー 船をり宿

子カフトモウシ
四里六丁

その船いむ且下どもかやがに人おる

秋奥よりテニホの川上之越る乃あり。ホロ

ベツ川まど女居伴松濱一入お小体不有。ト

フシヘツ川まど女居余あり人お妻屋をり昼

体不あり。ヲシ子ナイ

子カ下モウシ
大妻屋止宿まどー人おあり此辺

ホロイト
六里
其の旁ハ平山ありまどくハトバ

根の本主のこゝろあり。ヤムワツカナへ小川を。フウ
ビツ川を世居せゐ中船渡ふねわたへ魚体いさなをまゐり。ヲチ
シへ川を六七むな居人ひと家あり。トコナイウシ船ふね航
えソウヤ。モンベツのアキ分境あり。リニラウシ
船ふねとより石いし居樹主じゆしゆの系けい居あり船如ふねごと伸のびとエ
タエサシとのふこの伸のびと過とほくツカウテルムよ
ゆあり

母衣内ホロナイ

サツキト
五甲安丁

おわかんや
本妻居人ほんつまゐり家あり止宿とどまりとゞり小川こがせを
渡わたり。ウエニチ伸のびとてとゞり。ヲ

トエ子こがせフ小川小体こがせ不あり。ヲム川つえをち子こ余よ

船渡ふねわたへ人ひと家あり。ヲ多おほツコムシへ小川こがせ体た不あり

サツキ

モンベツト
八甲安丁

おわかんや
本妻居止宿ほんつまゐりとゞり人ひと家ありか
切きり。ヲコチこがせ川ありとゞり七しち居ゐる

・アノフニ小川ありこがへ

勇川ユウカハ

トウコロロ

合兵丁

大坂倉あり止宿をへて人衆を川あはせ

ありまゝに十番余船渡り。トエトよ

コ小休所。ワツカ昼休小倉あり。トウフツトひるやすみ

泥あり田が十余里とて其泥の海そのぬまは落おちく水

大河あり船渡りあり人衆を小休所とまじいなが

トウコロ

アハシリ

七里サテ

大坂倉あり止宿をへて人衆を川あはせ

ありまゝに十番余船渡り。メチヤコえんよ

ヲマナへ小休所。モイツは石モツツ。シヤリこのこの

境あり境杭をへシマコマナエまよりまを

るこの御おんとト口くちの山やまありつら羊腸坂ひつじとよのく

ホヒリシヨ小休所ありあはせよりま。タン子シラあはせ

りこよりま漢辺。ハイラ子漢山を人衆あり小あはせ

川ありきよみち漢獵場あり。ヘトカリ漢中れうご人あり

。モヨロ人あり

安和進利アワシ

おんおんや大差屋人あり 船渡しの川あり

シヤリト

九里丁

せんよまなるむる年ま新まハタラととる

小濱あり

周里三丁

このうげ此陸人せんが船かるま白急船うすま宿

とありぶありま且まともま便利あり川の源は派あり

周里九八里ととるこのところ船ありとうが乗船あるま乃ま

川の源ありまき里の津ありととる

ぬま派ありととるの二里ありをありかりの上ありととる。アハシリヘツ。

レブニシリ。シヨイピラ人あり。ヲニ子

ナへ人ありととるわまより十里ありをありりあり乃あり

越ありくありクスリあり乃ありととるあり

ホニムエ小川漢あり小倉あり。ヲニヨフ小川漢小

屋あり。エシヤヌエ人衆あり。モコトよふぬま泥

ありぬまおろ泥流たぬ十のたぬ船渡ふねわた一人衆あり。ナヨ

口人衆あり。チニ子エ人衆あり。トラフツ人

衆こやせ小休こやすあり。アラシマエ人衆ありまがさ長き

里ままとのま派はありたぬ泥流たぬ舟ふね丸まる船渡ふねわた一人衆あり。ニ

トエ人衆ありひるやま昼休ひるやすあり。ウハニクニ人衆あり。ヤ

ニすへツ川すもす八百橋やちひゃくはしをす架かき人衆あり。トコタシ

小休こやすあり

シヤ
舍利せり

えんが屋やをちうご新あらた人衆ありちうご此こゝ所ところをちうご流なが

シレトコサキ
十五里じふごは

あまソウヤの支配し方かたとあ且かつア川があり

そがた世よ名な舟ふね船渡ふねわた一人衆ありちうご此こゝ所ところをちうご流なが

あゆむあるるあり

直上ちうじやう屋やよりより十二じふにルるウチヤルうちやる二里にルるへツチヤ

三つあんどム

以経不きう三里半洋ありと。ルシヤも多し人衆

あり東越へふ誠のなあり大経和之三里をかり

大衆の押を海へくしレトコ押も多し和之物也

と東北の境へ百五十度強の経度ありとく

ナシリのチヤク余リ北陸夷のレトコと和之

の押あり松前島のそとに神と和之船のまあり

五度禁止まといり形作雜兒ふ云早午は度

ぬ十分の和よ一ツのさるふありそと頂は和之

ふを繞りて乃路あり樹木夥しく且瀑布花

泉あり海中に落る矢説ありとまじウナベツふ

あり。小極北に早午は度ありと。ソウヤよりシヤ

りまじく九十一里の平の不難船も真鏡毘布

海州海獣多し又海岸は鉄砂多し

蝦夷行程記卷之上附録

江戸

阿部喜任纂述

伊勢

松浦 弘校訂

北蝦夷地之部

○喜任按むる小國史は莫曳鞆鞆とのみ中

古小舟夷の多く来りて故よカラヒト名と

いふがき状ヒとフの意誤みそカラフトニマ

とらふ邦人のまをて小國とさうてカラと文

をあり文化年間

官より合ありと小販夷と改めゆふその幅負

廣狭をいまで悉く様ありてといふも寛政

家和のころ

宮より東に踏動をあらむ一後採

録をのめよあり其大略をあるを吳日其

地を跋渉し人よく予が僑王と云く

予不度水一自ん王と實ふ

曾字耶より海上十八里と中村橋の二

子の徳さう回良辰六十三里とのみ或八十七

里とのめり海より辰巳風

を晴獲多し鏡とて西南に馳ること

十の六所少く少は針路を看りまじ里余

少くニナイ押と過く凸は針路と云と

なり風をけりたとき六七宮の月ふ針路

たよりニラヌニへ是と

○西廻り村々倭寇紀

平砂シラサ

ニヤウニロ

五里

曾宇耶ソウウヤよりツツの倭ツツ口ありツツ東浦ツツ

小島コジマとカ負ヒツトいヒツト福浦フクウラよりウラおウラひウラらウラけウラる

平砂シラサよりシラサ大津オホツ倉クラをシラサ水ミヅ産ウみシラサひシラサ砂シラサ一シラサ全シラサ船シラサ

七八シチハチ舟フネもシチハチ五イ里リ船フネをシチハチろシチハチふシチハチたシチハチ島シチハチ合シチハチ船シチハチとシチハチ漸シチハチ

くシチハチ砂シチハチ峯シチハチへシチハチ舟フネとシチハチるシチハチありシチハチ已シチハチの方シチハチをシチハチ里リ許シチハチありシチハチて

ノトシチハチ口シチハチ世シチハチ能シチハチのシチハチ南シチハチ押シチハチありシチハチてシチハチソシチハチウシチハチヤシチハチのシチハチ三シチハチ里シチハチとシチハチ押シチハチと

對シチハチしてシチハチ海シチハチ水シチハチ急シチハチ流シチハチのシチハチ如シチハチくシチハチ海シチハチ峯シチハチをシチハチ悉シチハチくシチハチ砂シチハチ浜シチハチ

ありシチハチてシチハチ舟フネ丹ニ人ヒト世シチハチ能シチハチありシチハチてシチハチ交シチハチ易シチハチとシチハチふシチハチまシチハチとシチハチ渡シチハチ

海シチハチのシチハチ風シチハチはシチハチ舟フネ能シチハチありシチハチてシチハチ。シシチハチラシチハチ又シチハチシシチハチとシチハチのシチハチ六シチハチ砂シチハチ地シチハチ

系シチハチ祖シチハチのシチハチ養シチハチありシチハチ。砂シチハチ浜シチハチをシチハチ十シチハチ町シチハチ許シチハチありシチハチてシチハチ。又シチハチ

ルシチハチナイシチハチ山シチハチのシチハチ間シチハチはシチハチ小シチハチ洲シチハチありシチハチ。又シチハチ砂シチハチ浜シチハチとシチハチ由シチハチきシチハチ。又シチハチ

ニシチハチトシチハチヒシチハチナイシチハチ上シチハチふシチハチ根シチハチ木シチハチ立シチハチありシチハチ。平シチハチ地シチハチありシチハチ。へシチハチシシチハチ

北海道記 卷 北海

トモナイ小川あり。カワトク小川あり。船橋
世より丸形坂十七町評の作とこもむべ。
リイベミ世礼も砂溪あり

世シラヌエより舟の人の皆搔送る船

ふく出るありカワトクよりの海岸へ船登

みそ路ふー。アカラカイ世礼もまのこ殺

十丈のきや崖あり海ととのく押とよる

ニヤウニ
モエトマリキ
十里
世無人家あり止宿まへ一寛政
元年の夏魯病垂人の来船せ

此あり。ヤラチワナイ砂溪あり。ウエニチこた

より出押をさうおろく。ランコマナイ小川を

フレチニボ少しの平山押あり。ヲニ子ノソエ

平破あり。ハホヲマナイ小川あり。チニ子ヨ

ロマへ平破。キイタナイ平破。エサンへナイ
平破。ハウヤ。ヲソコマナイ。ヲン子ナイ皆
砂演あり

此迎悉く平破すこのんしやと云う六平ひらやまありあよあり

ふ又カリ破あんぢよとあなぢよしあなぢよるあなぢよがあなぢよああなぢよるあなぢよとあなぢよくあなぢよ歩あなぢよ切あなぢよ歩あなぢよをあなぢよ

難あなぢよ有あなぢよあり怒あなぢよ湯あなぢよのあなぢよ為あなぢよふあなぢよ海あなぢよ岸あなぢよへあなぢよ海あなぢよ藻あなぢよをあなぢよお

とあなぢよせあなぢよ砂あなぢよとあなぢよかあなぢよつあなぢよとあなぢよくあなぢよそあなぢよのあなぢよまあなぢよ腐あなぢよ爛あなぢよをあなぢよ一あなぢよ破

ありあなぢよああなぢよまたあなぢよたあなぢよ母あなぢよくあなぢよ性あなぢよ其あなぢよのあなぢよ人あなぢよをあなぢよ用あなぢよふあなぢよをあなぢよ死

あり

モエリトマリ
アルトルニナイ
六里

此このとよろか札し古こハはナなヤやニにとと以いハは一いありあり文

家あなぢよをあなぢよをあなぢよ新あなぢよありあり止あなぢよ宿あなぢよまあなぢよへあなぢよ漢あなぢよ編あなぢよ

も難あなぢよ鷲あなぢよ多あなぢよ一あなぢよ籠あなぢよありありとともも時あなぢよ海あなぢよはあなぢよああなぢよはあなぢよをあなぢよ

是あなぢよ所あなぢよおあなぢよふあなぢよ一あなぢよ籠あなぢよ一あなぢよ服あなぢよ起あなぢよ一あなぢよ。ナイあなぢよエあなぢよニあなぢよたあなぢよちあなぢよふ

ヌカリ^{ヌカ}候^{コト}あり。トエマフ^{ひら}平^ら候^{コト}あり。シラ、ウ

シナイ^{このま}仕^し押^おと^の少^す一^{いち}島^{しま}あり。レブ^まンツウヤ^ん内^{うち}

み入^ある^ま船^{ふね}あり^まと^の一^{いち}。コタ^こント^のタ^たント^のマリ。シ

フウ^ふシ^しナイ。マ^まチ^ちラ^らシ^しナイ。ウ^うエ^えニ^に子^こ平^{へい}と

少^す一^{いち}の^の出^で押^おあり^まと^の内^{うち}入^いる。シ^しイ^いナ^なイ^い人^{ひと}あり

あり。ナ^なイ^いボ。エ^えウ^うル^るナ^なイ^い大^お出^で押^おあり^まと^の内^{うち}

み^みと^とま^まら^らる^るべ^べ一

ア^あトル^{とる}シ^しナイ^い ^{おん}大^お島^{しま}あり^まと^の止^と宿^{しゆく}と^の一^{いち}海^{うみ}獵^りを

一^{いち}里^り ^{おん}モ^も上^うり^りみ^み園^{えん}ト。ウ^うニ^にニ^にコ^こ平^{へい}

候^{コト}。ウ^うラ^らマ^まキ^きナ^なイ。ケ^けヲ^を子^こナ^なイ。ア^あツ^つケ^けフ

ウ^うシ^しナ^なイ^い仕^し押^おと^の一^{いち}島^{しま}あり

ナ^なヤ^やシ^しの^の西^{せい}六^{ろく}里^りを^をう^うり^りふ^ふト、モ^もジ^じリ^りと^とシ^しラ^ら

あり^まと^の園^{えん}に^に九^く七^{しち}里^り樹^{じゆ}木^{ぼく}少^す少^すと^と平^{へい}と^とあり^まと^の内^{うち}

其の二海出入多し波早し海峽を捕ま
き岸は海參多し陸より斜陽よりなる
且この日中の日影をえぐる

トコニホ
ワウニレ
二里

世不又大海りともいひますト
ナイヲロ西トニナイともいひ

ヲロ世不より十丁をかりしなり
とらふを海峽の一のあたりにあり

なきわたり人衆あり船は是とるの

そる漢捕鯨船その外船莫多しトルコ

五人衆あり。リヤコタニ此の船泊る

の島ありとくその島よりありこの島とト

ナイといふ。エエルコマフ

和得子
ウコウ

島あり世に左右岸なる

一里半

其の平地あり海に形なる

小川あり。ヲニ子トウへ人衆あり。セトウナイ

卵見得

ヌイヤ 茂倉あり左右之樹木多し

アサチナイ

一里十丁

の形をまを漢獵トコニホ小園

ヲトニクナイ小川あり。ナイウトル砂浜あり

アサチナイ

多しより

二里

茂倉をまぬ人衆あり小川を船を
漕板の本あり坂をま平山あり

。リヤコタン人衆あり。サツ生人衆あり。ハチコ

ウニナイかー御とこをま。ホロナイ川あり

左右平阪多し。ヲロツケナイ岩御とこ

まあり

クラントマリ

アサチナイ

二里十丁

茂倉をまぬ人衆あり船漕多し
世和左右の樹木多し又

又カリ磯とまありと。ニホフナイ。ア又子ナイ

人衆あり 伊波島^{いば}とく。ヲホトマリと死船^{しふね}留

あり。セヌクナニナイ人衆あり。ウエニエレルモ

砂浜あり^{さなま}

へ口ナナイ 波をきり人衆あり 船^{ふね}沖^{おき}をうへ

エニモヲナイ^に 一里半 漢^{ぎんぼう}捕^とトコニホふ^{おな}同^なド。ウトルナイ

。キトウニナイ人衆小川あり。テイ社^{このん}をヌカ

リ磯^{いそ}多^{おほ}し。マタルクニナイ。ホントマリヌカリ磯

エニモヲナイ 此^{このところ}の漢^{なま}か^きい^むや^む分^{ぶん}け^り波^{なみ}を^や人

二里半 人衆あり 船^{ふね}をうへ 漢^{ぎんぼう}捕^とトコニホふ

同^{おな}ドヌカリ磯^{いそ}を^かき^りと^く。ヲニチウホ人衆

あり。ウエニナイ。フウレナイ。チニナイ川

有^あ。ホロトマリ。ホロへツ川あり 船^{ふね}を^し泊^まる。ホニ

へツ川ありヌカリ磯^{いそ}の^まを^かき^りと^く。

トマリホ

ノタニヤニレ

八里

世不^{かんや}義^{かんや}屋^{かんや}を^{かんや}舟^{かんや}人^{かんや}取^{かんや}あり^{かんや}船^{かんや}か^{かんや}る^{かんや}
酒^まより^{りやま}平^{あひり}六^あより^あ樹^あ木^あ多^あし^あ後^あ捕^あ

よりヌカリ候とまらるる。トニナイケセ。トウ

ナイ。ナイチヘナイ此^{この}辺^{へん}より^{より}船^{あひ}と^あ沖^あの方^{かた}へ

物^{もの}々^々海岸^{かいがん}傍^{かた}。ハボマへ平^{へら}候^りの^の方^{かた}候^り

の本^{もと}多^{おほ}き。ト口^{くち}岬^{さか}世^よ不^ふ平^{へら}候^りの^の岬^{さか}あり

てヌカリ候。此^{この}の本^{もと}多^{おほ}き。より^{より}船^{あひ}と^あ東^あ

水^{みづ}の方^{かた}あり。サ^さり^り少^{すく}く。レフタナイ。ホロアツ

クニ此^{この}辺^{へん}候^りの本^{もと}多^{おほ}き。ウエニヤルニナイ船^{あひ}

渡^{わた}りの川^{がは}あり。奥^{おく}の^の派^はあり。六^む皆^{みな}平^{へら}あり

。ニクムニナイ。ヌより^{より}ホロヒラ^{ほろひら}この^{この}邊^{へん}都^{みやこ}

く岩^{いそ}岬^{さか}多^{おほ}く。と^とび^びえ^えま^まち^ち風^{かぜ}景^{けい}あり

と^と死^しあり。ヲ^をニ^に子^こナイ

多三ヤニ

シラロ、ヒ

八里

表をわたりて今入るにけり
よりこゝに死する人あり船後

の川さつあり船宿へよ移り左をさるる

同業より海へ出る御とありて。ハチコナイ。ラ

シクニトナイ。ヒタニナイ。フランノウニナイ

所漢あり。アラコエウニナイ大岩御膝渡り

くとうく。クフエ、ナイ。ヘラマナイ。キイタ

ウニナイ能より所寄りて及り。テイカイ

巖石をびえりてり。ウホ、ナイと道より平

破あり。ベウレテカ。サカマウニベツ川あり。ア

ナイボ破漢を少くせり。トメウニナイ。ウ

ウセウニナイかく御とあり。レウチリニカ

エ。アソクナイ川あり。コチホヲナイ出御し

カニツワクナイ

白路々
シラロロ

テヨロト

二里

人家三軒平漢上の芳野平山樹
ゆかり
本多〜小川を結の漢より北に
このへん

五りのとれり人家ありと止宿を破漢を
つらこ

か〜ゆ〜。ラマナイ船わか〜の御ありゆ
ゆかり

とろろぬち
ま〜砂漢路あり

十ヨロ

クニユニナイ

二里

人家あり山宮ま〜お園け村落と
ふかり
あま〜〜ま〜母なる年の川を川原を
なよ

僅よは又尺の海ま〜と小舟と入〜と海へま
ゆかり

海ありて船波手舞〜と船多〜。クニラシケニ
ゆかり

砂漢あり。ホロツ小流〜。ホ〜ツ岩穴ありま〜
ゆかり

俱春河
クニユニナイ

ライチニヤ

十三里

人家あり。クニユニ河船渡〜と寛政
ゆかり
度は最上常拒世地と測常〜と

小極田十八夜ありと云々

クニニ河と浜あり九六里許ありカムイコタレ

小一宿一陸路の中と二里をかり小派の傍に

出二道より二里をくろりりく。トウヘツ。チ

ヘヤニ小一宿一翌日の東岸の摩徳川よある

あり九十五六里ありと云中ト。モこの木

を多く極めく程あり

クニニナイ河と流す。ホニナイを平垣あり。ノ

ツシヤフ人承あり少一の岩岬とあり。ラタス

ツ砂礫あり。ルクニナイ人承あり

來遲進河 人承あり川内は二百石程の船

一日路 入るをばととも川底の深さあり

あり少一海まは深さまたは又ありと云々

谷タニよヨとト思おもひひつつるる六む七しち町まち海うみまま。ライチライチニカ山ニカ山あり

長ながきき三さん日にち里りままきき里りままありあり又また月つきのの上うへ二ふた面めん

の氷こおりありあり大おほいい氷こおりをを渡わたるる。ライチライチニカ山ニカ山まま

東とう北ほくののヲヲリリカカタタももももニニズズニニウウキキタイタイノノホホリリ

ととのの入いるる山さんありありリリンンカカモモイイ駝た鹿かありあり

コダレウトル
人ひと家かありあり船ふね溜ためありありそそのの左ひだり右みぎとと砂すな

一日いちにち路みち
漢いん少まとと路みちよよ一いち日にちハハモモ之のああまま之の

石いしのの方ほう北きた十じゅう里り件けんああくく滿まん州しゅうのの地ちとと室むろむむ川がわまま

牛うし用よう路ろ
人ひと家かありあり海うみ岸ぎしまま八はち日にち馬ば千せん石いし二に

三さん艘そうもも入いるる。三さん年ねん吳ご船せん二に艘そう本ほん船せん

せせ一いち町まちありあり入いるる江えはは水みづ臭にお多おほくく諸もろ方かたよりより出で稼と乃な

場ばありあり。ウうロろウう子こ小せう流りゅうありあり。ホほロろチちニニ鱈たら多おほくく盛さか

ありありとと此こゝをを村むらありあり人ひと多おほくくありありととののイいツつニニ

ええんぶ
山丹人の図



正緒

かゝる婦をもえを言ふくじ
おききし此處よりつ乃
こゝもききけり

十一

り砂溪あり。トヲ、口所航を極の入口あり。突
 小つたぐく船あり。ヲロウエ砂地あり。シヨウヤ
 砂溪ありこの辺冬月ハ七八町の沖まぐ氷と
 あつといふ

モロコタン

人少小川あり所川より以水へ自然
 と丹の風俗はうまう娘は

小販夷図説とてよく知るべし

○東廻り村と港と記

ニラヌシ

此所より東南の方溪をうトアク

コニライ

十二里

ナイの砂溪ト七八町をかり城あり

グイ一名チシヤといふ和子義經の塚跡ありと
 いへ方百石むらう三方の堤ありと海と役け方

海岸の小さな穴あり流きこる

陸波路

此地一極南の岬ありソウヤと對

待し東大洋への海峡あり逆浪洪濤岸を

らちくと移る等々ありむこの岬とありて。ハラマト

コレボ岩礫あり。ホロトコレボまき西南へ出

たる。カモイシヤハとの岬の岬あり七人

あかぬ過すと死ハ必ぬととのみ。チウシ大あり

岩の岬ありことよろ小針とよりまき

大岩碑一つこととく。ハエカルクタ大岩碑と

ことえく。ベサシ岩岸あり大懸和。ルイシヤ

ニ。ス、エ砂礫あり。ヲタレユ岩礫。ヲオツタ

ラリ岩礫岬路あり。千シヤ小湾岩

まき。ホロトマリ。ピシヤサシ地和砂礫

東山あづまやあり。とも海うまにぐじりき里さとをくらの石いし
砂すな深ふかあり。千、上かみこととよう。又大岩おほいし押おしあり。千

フクミ。モコチロフ砂深あり

コンフイ 東山あり止宿とどまりをへ川がはは窮きつ多おほい

リヤトマリ 一里
。トウコタニ砂深あり。トコメト人

東あり。へトロイ人東あり。イナウと人東あり

エタニエトモゆきく暖あたたかあり地あり

リヤトマリ 東山二形人東あり岩いそ破やぶふりく

ウルウレ 九里十
東山あづまやと東あづまともいふいき和わありその

らくゆき死し水みづいふいふあり 松まつをうう室むろ一ひと漢かん橋はし多おほ

き和わありあかりの岩いし押おしととううく。ホニヘソウ小

名なあり。ハアラチナイ小川あり。フルエ川がは有あり

此このの入いり 此このの入いり 平地ひらちよよちととるるろろい。トマリ

ヲシナイ川あり陸くたへ平山あり。へエウトル川を
。イタ、クウニナイ平山あり。チノ之海岸なげん臨
沮そあり。ミシトル小川あり

卯流ウルウ

リラク

四里半

葦かんや屋やを新あら人ひと家やあり又出秘でくせだ度おん良ら

純ほん美み子こ船ふねの漢ま宮みやう一いち比ひ地ち平へい垣げんよ

ちくよく開ひらけたり穴あなも多おほく雜ざ木もありウルウ川

石いし船ふね多おほく葦あし屋や石いし破やぶあり船ふねをみま

沖おきをりあり破やぶ淡たんを好このきく。エカウ子こナイ

小川あり。ホロナイホ葦あし屋や川あり。ケ子こウ

シ人ひと家や川あり。クナチイ人ひと家やあり砂まをみち

陸くたへ平山あり又カリ破やぶ多おほく

リラ

ルウタカク

一里半

葦あし屋やを新あら人ひと家やあり船ふねハ沖おきをり

舟ふね邊へ波なみ浪なみをり秘ひあり漢ま獵りやうウル

ウ小園ある一砂丘あり

ルウタカ
巖をき形人衆ありてうまだ出稼むの場あり

ヒララシナイ
二里半

ルウタカ川たが六十百許たう。ウラヘ川

船ま沖おきをりまへ。ウニラ巖をあり。ヲタコニ

ライチニ巖をあり砂丘あり

ヒララシナイ

巖を小川あり船沖をりまへきよ一溪

シユシユヤ
海上二里半

獵しやうハ氏のえ迎え大抵ふ因ふ陸るハ平な山あと難

木き多お一おるふあり。ヲニ子こタた砂溪あり。カ

ムイシヤハ人衆あり船やまより陸るハ系系ききの中ちと

潮あきちりぬるう泥濘ぬりまと志あ難んあり。ケ

川あり。モシホ川あり。メチニサシ。ルエカヲマナイ

シユシユヤ

人衆あり世和このへらアニワ湾わん才さい一の突あ地ち

ウシシナイ
二里

あり田あ急き又また波浪なみかかりもあり砂溪さ

世^{このこ}より宇^いまふと一日^{いち}路^ぢす。タコイ人

衆^{しゆ}ありこの所^{ところ}一^{ひと}宿^{しゆく}志^しく東^{とう}部^ぶのナイフツ

一^{ひと}所^{ところ}あり山中^{さんちゆう}田^{でん}名^な存^{ぞん}ま^ま一^{ひと}所^{ところ}一^{ひと}土^ど人^{じん}まら

至^{いた}り移^{うつ}ありとらふ

トマリヲニナイ人衆あり。エントモヲ口人衆

あり。ハルニコ人衆あり砂^{すな}まきり世^よ迎^{むか}より漢^{かん}

迎^{むか}ふ向^{むか}くあり

ウニユニナイ 義^ぎ登^{とう}英^{えい}よ人衆あり船^{ふね}がら

一^{ひと}里^りは 一^{ひと}漢^{かん}稱^{しょう}ヒラヲニ迎^{むか}と同^{どう}ト。

ウコカリウシ。ウシヲニ小^こ川^{がわ}あり岩^い押^{おし}を

まらるる。イクモエントモ。シユマライ。ハ

ソコトマリ人衆あり東^{とう}部^ぶ好^{こう}湯^{とう}代^{だい}一^{ひと}名^な

ウフレカムイノホリ^{ほり}を^をめ^めあり

俱春港

フアイ占リ

二里

本名ハトマリヲ口といふ
破ありと

いふ意コタニハ村落の暮コト
下ヤ
是ハ破ありと港といふ意

好少^{てんごう}は^{きん}不^ふあり^り勅^{しやく}着^{ちやく}不^ふあり^り本^{ほん}港^{かう}多^たく^く澳^{あう}小^{せう}

名^なハ^{かま}救^{きう}吉^{きち}且^{かつ}ハ^ああり^り大^{だい}令^{れい}百^{ひやく}十六^{じゅうろく}あり^りと^とい^いふ^ふて

大^{だい}澳^{あう}あり^りと^と知^ち知^ち之^し一^{いつ}國^{こく}ハ^{くわん}完^{くわん}展^{てん}と^とト^とカ^かチ^ち毎^{まい}

之^しの^の量^{りやう}あり^り舟^{ふね}れ^れ多^たく^くを^を村^{むら}より^{より}来^きり^りて^て鯨^{くじら}と^と捕^{とら}

と^と夏^{あつ}は^{やま}も^も且^{かつ}ハ^そ其^{その}人^{ひと}如^{ごと}ル^るヲ^をカ^かタ^たの^の辺^へに^に入^いり^り

と^と船^{ふね}を^をと^とり^りて^て其^{その}人^{ひと}如^{ごと}ル^るヲ^をカ^かタ^たの^の辺^へに^に入^いり^り

とも^{とも}其^{その}人^{ひと}如^{ごと}ル^るヲ^をカ^かタ^たの^の辺^へに^に入^いり^り

舟^{ふね}は^は船^{ふね}の^の多^たき^きと^とい^いふ^ふサ^さル^るハ^はイ^い港^{かう}と^と

舟^{ふね}け^けと^と舟^{ふね}邊^へに^に捨^すて^て送^{そう}る^る船^{ふね}多^たく^く一^{いつ}路^ろを^をと^とり^り

り^りき^きく^く。ホ^ほロ^ろア^あニ^にト^とマ^まリ^り船^{ふね}を^をア^あリ^り場^ばあり^り人^{ひと}家^か

あり^りま^まく^く大^{だい}澳^{あう}を^を見^み土^ど人^{じん}出^で抜^ぬの^の小^{せう}屋^{おく}多^たく^く

寧波港之圖

クニユンコタンののづ

私

アニワラこころ

彩の上まても

そあるみ代よ

あやもあにらうま



竹

。サ子ナウシ。エントモカ大岩^{おおいそきい}押あり。トエク

シ。トウコタニ。ナイラロ砂漠^{さふまゐ}と^ま過ぎ少一内

あふる^{まへ}箱^{あし}南^{あし}うけの地あり

ヲフイトマリ 大^{きい}岩^{いそ}を人^{ひと}が^があり^{あり}澳^{あし}欄^{らん}クニ^{くニ}ユニナイ

チヘシヤニ^{ちへしやに} 四^よ里^り半^{はん} 小^こ同^{どう}ト^と松^{まつ}を^をう^う洞^{どう}あり^{あり}心^{こゝろ}の^のち^ちな^な

あ^あめ^めあ^あて^てゆ^ゆべ^べー^ーと^とく^く平^{ひら}地^ちあり。エニ^{えに}コ^こロ^ろア^あレ^れナ

イ。ヲ^おタ^たサ^さレ^れ心^{こゝろ}を^をあ^あと^とく^く言^いふ。メ^めレ^れイ^い少^{せう}一の^い岩^{いそ}

押^{おし}あり^{あり}社^{このじやう}祝^ゆより^{より}冬^{ふゆ}月^{づき}ハ^は雪^{そふ}車^{くるま}あ^あと^と一^{いっ}日^{にち}よ^よト^とコ

ナ^なイ^いヲ^おヤ^やへ^へ土^ど人^{にん}ハ^は裁^さと^との^のふ。シ^しヤ^やコ^こカ^かイ^いウ^うシ

砂^ま乃^な。ニ^にユ^ゆ子^こウ^うシ^しナ^なイ^い大^お岩^{いそ}あり。ニ^にト^とウ^うシ^し岩

乃^の上^{のうへ}よ^よま^まる^るふ^ふあり^{あり}その^{その}形^{かたち}柔^な硬^{かた}を^を伏^ひき^きや^やり

岩^{いそ}押^{おし}と^とあ^あり^りく。ハ^はチ^ちコ^こベ^べツ^つ岩^{いそ}押^{おし}あり^{あり}人^{ひと}が^があり

。チ^ちエ^えト^とマ^まイ^い復^{たがひ}登^{のぼ}る^る人^{ひと}が^があり。レ^れブ^ぶシ^しゲ^げベ^べツ^つ少^{せう}一

大船おせんも船ふねも入るいれるが、アサウダ岬岸しづみの人ひと家やあり洞内まぐらも

海うみ参まゐり多おほし

世よ不ようくさレトコの方かたへ西南くわいなんうけの海岸かいがん砂

浜はま十じゅう丁てい坪へい切きりと岡おかのかきもも入いれるを全ぜん坪へい由ゆ起おこと

ナイヲなイい家やありはらぬたかかのふあり

。レタリすまチまエまカリま砂すな浜はま。チちニにヤや海うみ中なかつ二に丁てい坪へい

隔へ々さ方かた西にし六ろく丁ていのこ小こ島しまあり。ノのニにケけタたナイ

裏うら庭にやありなまま坪へい切きりと。フふウうレれ裏うら庭にや人ひと家や

あり。ヤやマまニにベべツつ裏うら庭にや人ひと家やあり砂すな浜はまととま

坪へい切きりととアあチちヤやカかリりへへまままま。ヲをマまヘへウう裏うら庭にや

人ひと家やありま丁てい坪へい。ニにラらリりウうトとルる裏うら庭にや。チ

カかフふエえウうニに人ひと家やありままま坪へい。サさツつホほトとビび不

ようようまま終しゆうへへ山やま越こええ九く一いち日にち路ぢありと世よ不ようくさ

奥津屋おくつやを以て人衆あり砂及丸世下をり

以て海岸うみがし悉く磐石あり松根炭まつねすすハ一里ハ

奥之舟おくのふねヲ船ふねヲ林まきノ下ニ於テ許岩岸いわぎしハ一里ハ

○ラツテエカリ大岩おおいわノ下ニ於テ。エナウニナイ

ホ大岩おおいわノ下ニ於テ。エナウニナイ

西津にしんノ下ニ於テ。エナウニナイ

伊いノ下ニ於テ。エナウニナイ

○此このノ下ニ於テ。エナウニナイ

あり。ウエニトマリ心こころノ下ニ於テ。エナウニナイ

許ゆるノ下ニ於テ。エナウニナイ

少すくシノ許ゆる。ヲツコトニ此このノ下ニ於テ。エナウニナイ

あり。ウエニホリテ心こころあり。カツラニ

ラ、人衆あり。岩いわノ下ニ於テ。エナウニナイ

タナイホ砂漢（おみちま）中島と許。コウトツタナイホ
 女（おんな）丁（ちやう）許。チレ子イ大岩の岬（でんた）岬と云うて
 小島許。ラタロへ砂漢中島と許。クシユニ又
 ツボ大岩岬と云う。ホントウラツク人衆あり
 岬上（二ぬま）は小岩あり漢辺（オぬべ）ハわよる（む）けりまうと許
 。ソウヤラマベツ人衆あり小岩の岬岬和（わ）ふ
 ありぬま許ありと。カムイケイウ（し）こまや
 。アイロウ人衆あり岬上（おみちま）砂漢岬辺（し）廿寅向
 あり丸（まる）島許ありと。トナイチヤ人衆丸水
 社和トウラツ（おちんち）の麓（ふもと）あり丸（まる）島ま（ま）くの石（いし）云
 十（じゅう）余（よ）里（り）とあり

トウラツ（おみちま）より大岬（おほい）
（おみちま）ヲロツクス委（おみちま）車（くるま）の（おみちま）人（おみちま）ハ（おみちま）中（おみちま）岬（おみちま）
（おみちま）そ入り岬田（おみちま）を（おみちま）ま（おみちま）斗（おみちま）ゆ（おみちま）く 中岬
 こま（おみちま）く一宿（おみちま）一翌日（おみちま）東岬（おみちま）へ出（おみちま）て（おみちま）廿日（おみちま）余（おみちま）とて

小岸のトニナイチヤへ寄る南木タカイハイ山あり

トニナイチヤ 人衆あり止宿まきべー一頁より濱

ウニチイハ 六里 人衆あり止宿まきべー一頁より濱

ラムトウ。ホチヨホカ人衆あり。ヲタウトル

。アエルツラ

ウエニコ 人衆あり止宿まきべー陸地へ平山あり

ニヨラコタンハ 九里 人衆あり止宿まきべー陸地へ平山あり

。ラフツサキ 人衆あり止宿まきべー陸地へ平山あり

ニヨラコタン 人衆あり止宿まきべー陸地へ平山あり

イヌニチイハ 八里 人衆あり止宿まきべー陸地へ平山あり

めくカ 人衆あり止宿まきべー陸地へ平山あり

イヌニチイ 人衆あり止宿まきべー陸地へ平山あり

ニヨラコタンハ 六里 小川あり。ラクイコタン。ヲタヘツ小

川あり。ノニアラフ人衆あり夫より川多し

ニヨウチナイ

人衆あり止宿まじり返らぬの本立

ホニナイ

六里

小川あり。ニヨウチナイ。ラニヨイフニ

人衆あり社あり返りニラエウニとてつるふ

タコイのまじり

高。ロレイ人衆あり。サツマ千人衆あり

ホニナイ

ナイヅル

六里

人衆あり止宿まじり返らぬの本立

小川あり渡辺のまじり。フレバノト

より人衆あり。ニエウチナイ人衆小川あり。ニ

ユマヤ太志出所あり人衆小川あり。ソウカヤ

人衆あり返り派ありがしぬる川あり

新子泊る各原のナイフツ派より出る云

里許より小川はマウ百里許

南方より

シユニエヤ越る各九二日路ありとてお入
そ即ち二日はお入るる夏月也

そよほくまき
たつたあり
。タコイ人衆あり川は深き

里むろり海は泥あり砂あり海は

ナイブツ

ニルトル

五里

人衆あり止宿まへ一坂横の本立

あつひふろ
みく深き海一。ア工人衆あり

砂路と少くはきく

ニルトル

マトマナイ

四里

人衆あり止宿まへ一坂平山

溪の末を向けり。ヲタツシヤン

人衆小川あり社このところあり

マトマナイ

マアヌヒ

八里

人衆あり止宿まへ一坂平山横の本立

。ヲタムニ小川あり。ノタニヤシ。ホロナイ

人衆あり。ケ子ウニ岩岸あり。ニラ口、人衆あり砂あり

麻縫

ホヤシケ

一日路

人衆あり止宿まへ一坂平山横の本立

る泥ぬちありぬるよりうをまくく奥少座おくせうざ。ツアレ人衆

あり。へしヨロ。マクレコタン。スリホ等とういぎさた出御多し

ホヤンケイ 人衆を止宿とせろより坂さかよむる海岸者

ナヨロト 一日路 路ちみありあり。ヌイ人衆有。ニリウ

トル人衆有。コタシケシ人衆あり此辺こゝの海うみよく

穏おだやうありく溪辺たにべに少く南みなみを向むけり

ナヨロ 人衆を止宿とせろより此より奥へ舟ふね風

ヨツベト 一日路 俗ぞく。ヲロツコ。タライカ人ひとの住すまり由よし

此より泥どろ接まりつの砂すな溪たにへ。セイベフロツコのなま瀬せあり川かわは

此こゝより由よし出でるヲロツコ人ひとは海岸かいがん者もの多くタライカ

人の住すまりは服うら装らいしむと檢が査いの切きり加かへく

五ご化け不ふ抜は後ごせざる事こと次つぎ

蝦夷行程記卷之上附録 早

